

実践報告

「グローバル人材育成」における産学官連携の可能性 ～出口治明氏（立命館アジア太平洋大学学長）を迎えて～

栗田 聡子

**The potentials of industry-university-government collaboration
for globally competent human resources education – Inviting Mr. Haruaki Deguchi**

KURITA Satoko

〈Abstract〉

In October 17 of 2018, the Center for International Education & Research of Mie University invited Mr. Haruaki Deguchi, President of Ritsumeikan Asia Pacific University and offered “Seminar for globally competent human resources” to students, faculty and staff. The event owes the success not only to President Deguchi’s excels in scholarship and wisdom, but also to the industry-academia-government collaboration with Mie Prefectural Government and Chubu International Airport Promotion Council. Since such collaboration was the first attempt for the center, this paper reports on the event including introduction of the Council and pre and post questionnaire collected from the participants. Answers in post questionnaire shows that many students were strongly inspired and encouraged by President Deguchi’s words and way of thinking. The importance to promote industry-university-government collaborations for globally competent human resources education is discussed.

キーワード：グローバル人材教育、産学官連携、国際交流

1. はじめに

不可逆的に加速する世界のグローバル化を背景に、世界各国の大学機関は国家プロジェクトとしての「留学」の必要性を強調している。日本は「グローバル人材育成推進会議」を2012年に設置、国家の成長を支えるグローバル人材の育成と活用が重要な課題であると提言した。「失われた20年」と呼ばれるように、バブル崩壊以来、経済的・社会的停滞を経験している日本においては、国の牽引力になりうる国際的に活躍できるグローバル人材は、経済界だけでなく学術や政治を含めた様々な分野で切望されている。それは、「産業・経済の急速な高度化・グローバル化の中で、我が国がこのまま極東の小国へと転落してしまう」（グローバル人材育成推進会議，2012，p.10）ことを回避するためでもあるとされている。

国の要請に応じ、各高等教育機関は「グローバル人材育成」を推進するべくカリキュラムの見直しや外国教員の増員、語学留学や海外研修に参加するよう学生を促すことに尽力してきた。三重大学は「三重の力を世界へ」をスローガンに、地域創生貢献大学でのナンバー・ワンを目指しており (三重大学, 2019)、地球規模の視野から地域の課題に取り組める「グローバル人材」の育成に力を入れている。

しかしながら、「グローバル人材 (財)」という言葉が多用されている割には、学生がその実体を把握し、必要性を明確に理解しているかという疑問である。「グローバル人材とは?」「どうして必要なのか?」「そのような人材になるために、今すべきことは?」等の問いに対し、深い教養を基盤に、長年にわたる実務経験から答を構築してきた人物が、「学生にわかりやすい言葉で」語る機会が望まれる。そのような知的人物から発せられる言葉は学生にとって「リアル」な響きで説得力を持つだけでなく、「不透明な未来」を生きる彼ら (と大学組織) に指針を与えてくれるものとなるかもしれない。本学国際交流センターはその必要性も考慮し、中部国際空港 (セントレア) の若者層渡航促進に携わる三重県庁地域連携部交通政策課との共催で三重大生を主に対象とした「グローバル人材セミナー」を 10 月に開催した。セミナーの講演者は「知の巨人」と称され、メディアでも注目されている立命館環太平洋大学 (APU) の出口治明学長であった。本編はその実施内容の報告とともに、セミナー開催の実現を可能にした産学官連携のグローバル人材教育に対する有効性について検討していく。

2. グローバル人材 (財) とは

前述の「グローバル人材育成推進会議」(2012)において、「グローバル人材」の定義そのものについては、明確な記述が見られない。そのかわり、必要な「素養」が主に 3 つの要素に分類されており、要素Ⅰ：学力・コミュニケーション能力、要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ、であるとされている。他に必要な資質としてあげられているのが、「幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと異質な者の集団をまとめるリーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等」(p 12) である。

それらと共に、本学は地域創生貢献を第一の目標としていることで、グローバルな視点から地域の発展や課題に取り組む「グローバル」な思考ができる学生を育成していく役割と義務がある。だが、果たして異なる資質や才能を持つ学生らが社会に出る前にこれだけの素養を一様に持つことができるのか、持つ必要があるのか、については別の議論が必要

「グローバル人材育成」における産学官連携の可能性～出口治明氏（立命館アジア太平洋大学学長）を迎えて～であろう。それら全ての要素を身に着けることを期待される側の学生に漠然とした不安を与えるだけかもしれない。大学時代という貴重な時間の中に生きる彼らが「今」をどのように過ごすべきなのか、説得力をもって指針やヒントを与えることができる知識人の言葉が必要である。

3. 中部国際空港利用促進協議会の設立と同空港の課題

出口浩明学長を招聘しての「グローバル人材セミナー」を可能にしたのは中部国際空港利用促進協議会とそのメンバーである三重県庁、三重大学国際交流センターとの産学官連携とも言えるタイアップである。中部国際空港利用促進協議会は2001年に設立、東海3県と名古屋市、（一社）中部経済連合会、名古屋商工会議所、中部国際空港(株)および関係企業・団体等から構成されている。設立の目的は、「周辺地域が一体となり、中部国際空港セントレアの利用促進・活用等の取り組みを推進し、十分にその機能を発揮させる」（中部経済連合会、2019）こととされている。

近年、セントレアにはLCCの新規就航や増便が相次ぎ、2019年にはLCC向けの新たなターミナルも設立されるなど事業規模は拡大している。だがその一方で、中部国際空港利用促進協議会の会議資料（2017年7月）によると、1997年以降、全体的に20歳代の出国者数が減少しており、1997年と2016年対比で37%減（▲169万人）との報告がある。2016年度における20歳代の出国率は、愛知で約24%（ほぼ全国平均）で、岐阜県は約22%、三重県は約20%と、東海三県で三重県は最下位である。この東海三県の現状を改善するためには、若年層のアウトバウンド数の減少をくい止めることが課題であると協議会で議論され、2016年度以降、愛知県下では「大学」×「セントレア」×「LCC（航空会社）」という産学（官）連携の施策のもと様々なタイアップ企画が実施されている（表1）。

基本的に、グローバル人材教育を担う教育機関と国際空港や航空機の利用率向上を目指す機関はお互いの役割と目的において相性が良い。表1にあるような連携授業は、国際空港と航空会社にとっては経済的な促進事業であるが、その事業を通して大学は学生の国際感覚を高め、海外留学を含めた海外渡航へ踏み出すきっかけを作ることができる。また、国際空港や航空会社が抱える課題をテーマとした実践的な教育は、将来国際空港や航空会社への就職を希望する学生には、就職準備のための貴重な機会にもなりえる。留学生とのワークショップでは、日本人学生が英語などの語学を通じて国際交流できる場も提供することが可能である。これだけの利点だけでも、国際空港の利用を推進する機関と大学とのタイアップはグローバル人材育成を推進していく上で大いに意義があり、ステークホルダー間での相乗効果も期待できる枠組みであると言えよう。

表 1. 2016 年度 中部国際空港利用促進協議会による若年層渡航促進事業 (一部)

イベント	イベント内容
海外渡航セミナー	南山大学：海外渡航者の体験談
連携授業	名市大×エアアジア・ジャパン：インバウンド施策共同研究 名大×デルタ航空：留学生とのワークショップ 愛知大×タイガーエア台湾：日台学生交流プロジェクト 名城大×エアアジア・ジャパン：産学連携授業 講師登壇 淑徳大×ジェットスター・ジャパン：産学連携事業 講師登壇 名商大×エアアジア・ジャパン：キャリアセミナー 日福大×エアアジア・ジャパン：キャリアセミナー
パスポート取得応援 キャンペーン	セントレアから海外渡航する旅行者の中から期間中にパスポート新規取得・更新する人を対象とし、抽選で 100 名に 1 万円分の電子マネーをプレゼント。
「はじめての旅」	高校・大学・イベントで 5,000 部発行。(改訂発行)

* 中部国際空港利用促進協議会資料より

2016 年度以降、愛知県下の大学でこの若年層渡航促進事業が継続されている事実 (セントレア, 2019) は、大学関係者が産学 (官) 連携の価値を認識し、同時に国際空港と航空会社がターゲット層に直接働きかける場を提供できる高等教育機関との連携を重要視していると推測できる。

4. 出口治明学長 (APU) 招聘への経緯

出口学長は三重県津市 (旧：美杉村) 出身で、公募により 2018 年から立命館アジア太平洋大学 (APU) の第四代学長に就任している。京都大学卒業後に大手生命保険会社に勤めた後、ライフネット生命保険 (株) を創業した経歴の持ち主である。

APU は 2000 年に「自由・平和・ヒューマニズム」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として大分県別府市で創立された私立大学であり、現在では教員も学生も約半数が外国人という国内では比類ない多文化共生キャンパスを構築している (APU, 2018)。そのグローバル人材教育を牽引する APU が出口氏を学長に選出したのはビジネスの手腕だけでなく、類まれな教養によるものと評されている。読書と旅を愛し、訪れた世界の都市は 1200 以上、読んだ本は 1 万冊を超える (出口, 2017) とのこと。特に歴史への造詣が深く、過去には京都大学の「国際人のグローバル・リテラシー」特別講義では歴史の講座を受け持ち、東京大学総長室アドバイザーも務めた経歴もある。著書は、話題作の『仕事に効く教養としての「世界史」』(2014)「人生を面白くする 本物の教養」(2015)『「働き方」の教科書』(2017)をはじめ、近著の「知的生産術」(2019) など過去 20 冊以上にも及ぶ。

「グローバル人材育成」における産学官連携の可能性～出口治明氏（立命館アジア太平洋大学学長）を迎えて～

出口学長は三重県出身ということもあり、かねてからサミット関連のイベントをはじめ、三重県知事や津市長との対談などに参加しているが、本学での講演会は未だ実現されていなかった。著者は以前から出口学長の卓越した教養と精神性に注目しており、時代のリーダーである出口学長のグローバルな視点や考え方というものを本学の学生に直接共有してほしいと望んでいたが、予算的な制限もあり実現には至っていなかった。そのような折、5月に県庁交通政策課の職員の方から若年層渡航促進事業についての説明と、出口学長が10月に県庁の「若手・中堅職員養成塾」での講演のために来県されるとの情報を得た。そこで、その機会を契機にし、県庁での講演の前に出口学長を事業の予算で本学へ招聘させていただく企画となった。イベントのタイトルは『グローバル人材育成セミナー「今」だからできること、すべきこと。』と、大学生の「今」という時間の尊さに訴えるものとした。出口学長の講演の他に、若年層渡航促進事業の一環として、県庁より海外渡航キャンペーン等について案内する時間も設けることとなった。

5. 参加者の募集

セミナーの参加者は三重大学の学生と留学生を中心に約60名を設定し、本学と三重県庁のHP、そして学内一斉メールで募集した。出口学長を招聘できる貴重な機会であるので大ホールで地域住民の方々にも公開した方が良いのでは、という声も上がる中、比較的少人数に限定した。その主な理由は、①ターゲットを「学生」に限定して「グローバル人材教育」のテーマに絞るため、②出口学長と学生との間を表情まで伝わる距離にするため、③質疑応答の時間に学生が質問をしやすいするため、そして、④環境・情報科学館のPBL空間を使用するためであった。環境・情報科学館（メープル館）は3階に開放教室があり、主に問題発見・解決型学（PBL）を実践する授業で使用されている。環境に配慮した設計であるだけでなく、デザインが開放的で温かい場の雰囲気を作りやすい（写真1）。加えて、



写真1. 会場に使用した環境・情報科学館3F

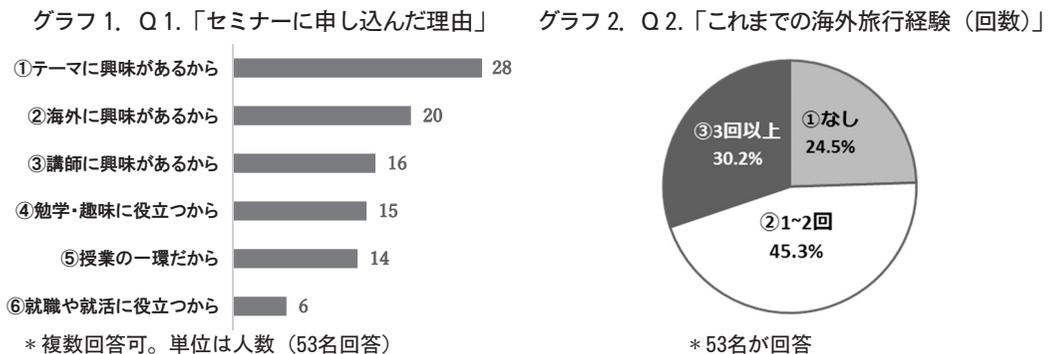
図2. イベント周知用ポスター

セミナー開催日は一部の学生が参加を義務づけられたインターンシップ説明会や本学がホストを務める学会等イベントが多く、開催の時間枠は多くの授業とも重なることから、残念ではあるが参加可能な学生はそう多くないと予測していた。

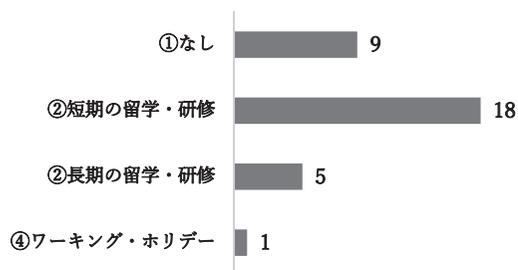
大学と県庁の HP で掲載する周知用のポスターは、8月中旬頃、本学の大学院生に作成を依頼した。彼女はかねてからデザインの美しい研究発表用のスライドやポスターを作成しており、参加者の年代にアピールできるポスターをデザインできると期待してのことである。タイトルの「今」がマークとして強調され、タイトルにあわせて時計をデザインに組み入れるなどの工夫もあり、全体的に温かい雰囲気のパosterが作成された (図 2)。セミナーの時間 (15 時 30 分から 17 時) から高校生の参加は難しいと予測していたが、事務チームからの提案もあり「高校生の皆様のご参加もお待ちしております」の一文を加え、応募を待った。募集の結果、グーグル・フォームからの応募者は計 53 名で (日本人学生 29 名、留学生 23 名、教職員 1 名: 当日の教職員数は 16 名)、残念ながら、高校生からの応募は皆無であった。留学生は、日本語レベルが上級のアジアからの学生が大半で、日本人学生との交流の場を設けるため、同時刻に開講されている国際交流センターの授業の日本語教員に参加を要請していた。当日の司会は 2 名の大学院生 (インドネシアからの男子留学生と日本人女子学生) に依頼した。グローバルな雰囲気を作り、国際交流を促進させるためである。

6. 事前アンケートの結果：過去の海外渡航歴と留学への興味等

当日 68 名の参加者のうち、53 名の参加希望者は、国際交流チームが作成したグーグル・フォームから登録を行い、アンケートに答えた。内容は、国際交流センターが事前に把握しておきたい個人の渡航歴や留学への興味、そして県庁交通政策課が過去の若年層渡航促進事業等で使用した質問を組み合わせたものである。結果は以下の通り。

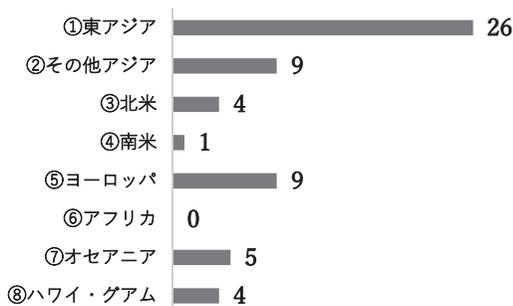


グラフ 3. Q 2-1. 「これまでの海外旅行経験（目的）」



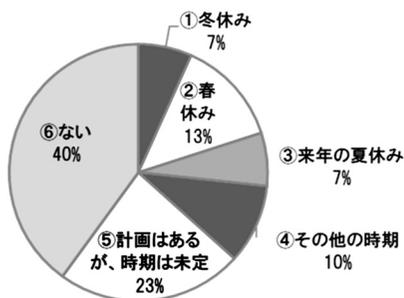
* 複数回答可。単位は人数（33名回答）
* その他、自由回答には「学会」「観光」「父の仕事」があった。

グラフ 4. Q 2-2. 「これまでの海外旅行経験（国）」



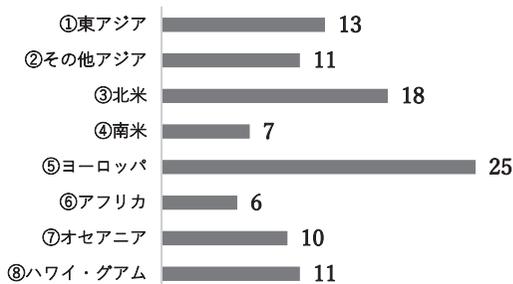
* 複数回答可。単位は人数（33名回答）
* 東アジア（中国、台湾、香港、マカオ、韓国、北朝鮮、モンゴル）

グラフ 5. Q 3. 「これからの海外渡航の計画（時期）」



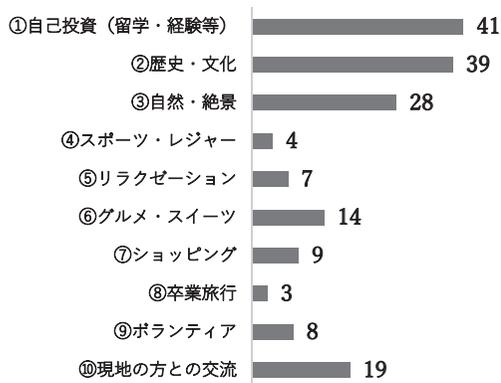
* 30名が回答

グラフ 6. Q 3-1. 「行ってみたい海外の地域」



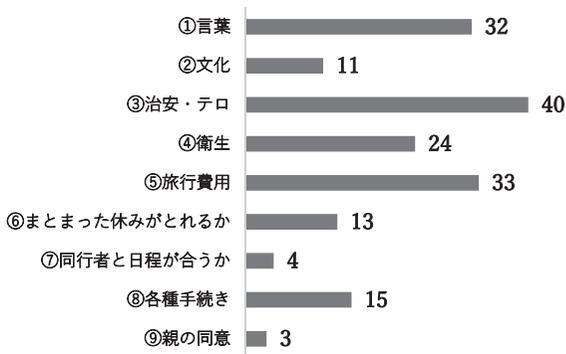
* 複数回答可。単位は人数（35名回答）

グラフ 7. Q 4. 「海外旅行の目的や興味等」



* 複数回答可。単位は人数（53名回答）
* その他、自由回答には「学会・調査」、「様々な現地の方の価値観を知りたい」があった。

グラフ 8. Q 5. 「海外旅行で不安な点」



* 複数回答可。単位は人数（53名回答）

Q6. 「講演者の出口学長に、質問したい事は何ですか?自由にお書き下さい。」

回答された質問を、内容により 3 つに分類した。

<留学・異文化交流について>

- 三重県のような地方都市に生まれた子どもたちが、海外に目を向け飛び出していくために必要な資質について、具体的な経験から考えられることをお聞かせください。
- 私は海外に憧れがあるものの、語学学習が苦手です。出口さんはニッセイ時代、海外で活躍されていたそうですが、語学面はどのように勉強していましたか?
- 異なる文化圏の方々と交流する際、文化の違いという壁を乗り越えるためにはどうすべきだとお考えですか。やはり互いの文化について学ぶことが一番なのでしょうか。
- 海外で吸収するべきこと(語学力を除いて)は何ですか。また逆に日本人として海外の人に伝えるべきことは何ですか。

<社会に出てからの成長と生き抜く力について>

- これから社会に出て求められる力は何だと思えますか?
- 今の、そして 10 年後のグローバル社会を生き抜くために必要な力。10 年後勝ち上がるために何をすべきか。
- これから社会人になりますが、社会人になってからは休み等も取りにくくなってくると思います。4 年生の残りの期間や社会人になってからでもできるグローバルな人材への成長の方法などあれば教えてください。
- 休学して留学に行く。会社を辞めワーキング・ホリデーに行く。これらに対して世間は冷たい目で見がちで就職が不利になりがちです。これについてどのようなお考えをお持ちですか。

<読書や教養について>

- 読書のようにインプットばかりでは記憶に残らないと思うが、どのようなアウトプットがお勧めでしょうか?
- 学長が大事にしてきた考え方。

Q7. 「三重大学に希望(期待)することは何ですか?自由にお書きください。」

<留学や研修について>

- 中期(3 か月程度)の留学・研修プラン、留学の奨学金やサポートの充実。
- もっと日本人学生に対する留学支援などを手厚くしていただけると嬉しいです。
- 1 年生の時に短期留学に行かせていただきました。これからもそのような体験を後輩の子たちにもできるよう、お願いしたいです。

「グローバル人材育成」における産学官連携の可能性～出口治明氏（立命館アジア太平洋大学学長）を迎えて～

<留学生との交流について>

- 海外にさほど興味がなくても留学生と交流できる機会を設ける。
- 国際交流センターや他学部の留学生との接点が少ないので、積極的に催しを実施してほしいです。

<講演会やイベントについて>

「講演会やプロジェクトの向上」「色々な講演会、サポート」

7. 「グローバル人材育成セミナー」の実施と内容

当日は15時10分から会場である環境情報科学館の3Fで受付を開始し、同館内の別室では30分ほど、出口学長を囲んで本学学長と国際交流センター長、副センター長との四者による意見交換会が行われていた。初対面ということもあって、出口学長の三重県での思い出にはじまり、APUの運営に関連した話題が上がっていたとのことである。セミナー会場では15時半から日本人（女子）とインドネシア人（男子）の大学院生が司会となり、出口学長を迎える前のアイスブレイキング・イベントを開始した。

第1部 アイス・ブレイキング（15：30～15：45）

受付時に参加者へ席番号を記載した紙を配り、3名掛けの机に着席してもらったため、前列に空席がでることはなかった。また、中央に留学生が着席するようにして日本人学部生と留学生との交流を促した。「これまでの訪問国の数」をグループごとに競うゲームを実施し、一番多くの国（6カ国）を訪問したグループには賞品を渡すなど、和やかな雰囲気づくりを行った。

第2部 若年層渡航促進のための情報提供（15：45～16：00）

大学生が世界を旅した動画で開始、県庁交通政策課の職員からグローバル人材の育成を含めた開催趣旨について説明がされた。セントレア利用の呼びかけとともに、「多様性」の理解がグローバル人材として重要であるなどの話も組み込まれた。LCC（格安航空会社）やFSC（既存の航空会社）の活用法やセントレアが企画している「旅券取得キャンペーン」等が紹介され、最後に伊勢志摩サミットで作成した三重県のPR動画を流して終了した。



(上) 司会の大学院生2名
(中) 県庁職員による渡航促進案内
(下) 出口学長による講演の様様

第 3 部 出口学長の講演会 (16:00~17:10)

① 講演の主な内容

盛大な拍手が沸き起こる中、出口学長が登壇。学長は、数々の著書でも論じているとおり、タテ（歴史）とヨコ（世界）からの分析、そして感情よりも「数字・ファクト・ロジック」を基に思考することが必要だと言い、そのためには、人と会うこと、本を読むこと、旅をすることで様々な情報をインプットするとよい、と話した。その他、今の日本社会は、大量生産、大量消費に適した年功序列や一括採用に基づいており、戦後の製造業社会から「風呂・飯・寝る」という働き方がまだ継続されているが、GAFA（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン）に代表されるように、柔軟な発想によるアイデア勝負の時代にはそぐわないと警告し、日本企業も、アメリカの大学のように「どれだけ学んだか」を測るため成績を重視しなければならない、と大学で真剣に学ぶことの大切さを強調した。参加学生らには、「好きなことがあれば極め、もし何がしたいかわからないのであれば、見つかるまでしっかり勉強すればよい。今すぐ始めて欲しい」等、数々のアドバイスを与えた。集中した雰囲気の中、出口学長のことばに熱心に耳を傾け、必死にノートをとる学生の姿もみられた。

② 質疑応答

出口学長の話は 15 時 50 分頃に終了し、質疑応答に移行した。自ら質問する学生は少ないと想定して事前アンケートの「出口学長に質問したい事」リストを用意していたが、次々と手が挙がったのは嬉しい驚きである。出口学長は当初予定の 2 倍の時間をとって、質問をした学生全員に明快かつ丁寧な回答を与えてくださり、講演会は 10 分延長して終了。「他に質問がある方は立ち読みで良いので僕の本にのせているアドレスにメールください」と言い残し、感謝の拍手の中会場を去られた。質疑応答の内容は以下の通り。

質疑 1. (男子学生 A) 「ベーシックインカムについてどう思われますか？」

応答 (出口学長) : ゼロからスタートするならよいが、コストが高い。本「教養としての社会保障」の一読を。

質疑 2. (男子学生 B) 「タテ・ヨコの考えに至ったきっかけは何ですか？」

応答 (出口学長) : 人、本、旅。人間の考えはすぐ変わるものではない。毎日インプットをしっかりとやる繰り返して血肉となる。自分は本 50%、人 25%、旅 25% である。

質疑 3. (男子学生 C) 「将来起業したいのですが、アドバイスはありますか？」

応答 (出口学長) : 「天の時、地の利、人の和」という孟子の教えにあるとおり、人知を超えたものがある。自分が学長職に就いたこともそう。風が吹いた時にしっかり帆が上がるよう自己投資をしておくことが大事である。

「グローバル人材育成」における産学官連携の可能性～出口治明氏（立命館アジア太平洋大学学長）を迎えて～

質疑 4.（男子学生 D）「人文系不要論、理科系偏重」の風潮にあるが、どう思われますか？」

応答（出口学長）：GAF A やユニコーンの創業者や経営者は文理両方の博士号を持つ者が多い。例えば自動運転には、その技術に加えて道路交通法や保険の見直しが必要なように、現実社会では文系、理系両方の頭脳が必要。文系、理系の区別があるのは日本だけである。

質疑 5.（男子学生 E）「どうして公募で教育界に転身されたのですか？」

応答（出口学長）：他薦により学長に選ばれたので、諦めた。人間の運命は人知を超えており、それに従った。

質疑 6.（男子学生 F）「(旧体質な会社で) どのようにクリエイティブになれますか？」

応答（出口学長）：組織風土を変えるには 1 人ではできない。4～5 人異分子がいると変わるの、仲間づくりが必要。

質疑 7.（女子学生 A）「企業の足切り面接についてよく聞き、就活に不安を感じる。」

応答（出口学長）：大企業ほど硬い。今は売り手市場でもあり、変に妥協しないことが大切。

8. 事後アンケート結果（セミナーについての感想等）

県庁交通政策課が受付時でアンケートを配布し、回収した回答結果（41 名）を紹介する。

Q 1. 今回のセミナーはいかがでしたか。その理由もお教えてください（役だった点やもっと知りたかった点等）。

（選択肢）

- ①大変満足
- ②やや満足
- ③普通
- ④やや不満
- ⑤大変不満

※「大変不満」を 1 名が選択したが、理由から

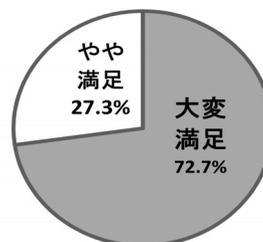
「大変満足」の間違いと判断し、変更した。

【理由「大変満足」を選択した学生】

<新しい知見や価値観、視点>

- 本を読めとやたらと言われる理由が、先生の講演をきいてよくわかりました。いろいろ勉強になりました。

グラフ 9. Q 1. 「セミナーの満足度」



- 教科書以外のことをいろいろ知り、とても勉強になりました。
- 濃度が高い。普段と違う価値観にふれあえた。
- 新しい価値観が得られたから。
- 自分の世界が広がった。
- 新しい考え方などを知ることができたから。
- これまで広い視点から日本をとらえたことがなかったので、今後就職活動をしていく時に、広い視点から考えることを理解できてよかったです。
- 現実的で実用的なことを教えてくださったため。
- 日本の労働システムの現状が、世界競争についていけなくなることを知った。年功序列が日本だけにあることに衝撃を受けた。
- 現在大学 2 年生ですが、これからの日本社会について、知見を広げることができたから。
- ものの見方や考え方について知ることができたから。また自分のやりたいことを見出すことができたから。

<社会に出ることに関しての不安を解消・軽減>

- 大学生が社会に出る不安を解消できたり、もっと深く考えるきっかけとなるようなお話でした。
- 自分は 4 年生で、これから社会人になっていく時に、「人・本・タビ」とどのようにお付き合いしていけば良いのか不安なので、また出口様にメールを送らせて頂きたいです。
- 日本の現状と今後の課題が知ることができた。今、自分がどうしていくべきか知ることができた。

<出口学長の教養や魅力>

- 出口さんに会ってみたかったので、満足です。
- 話し方が人を引き付けるもので、大変ためになりました。
- 出口学長の講演の内容も豊富、見解も深いです。
- お話が大変面白く、教養がとてもある方で魅力的でした。

<勉強することの重要性>

- 学生として必要なことが分かったから。
- 色々な話を聞けて勉強になりました。義務教育で歴史を勉強する理由がわかりました。

<実践するための意欲と感動>

- 今からでも動いてみよう！やってみよう！という気がわきました。
- 「人・本・タビ」これから実践していきたいと思いました。言葉の 1 つ 1 つがとても胸に響きました。

「グローバル人材育成」における産学官連携の可能性～出口治明氏（立命館アジア太平洋大学学長）を迎えて～

（留学生と思われる感想）

- いろいろなことが勉強しました。
- 難しそうな内容でしたが、大変易しくわかりやすかった。
- Very interesting way of thinking is totally different from other Japanese people.

Q2. またこのようなセミナーをする場合、どのようなテーマや講師に興味がありますか。

（自由記述）回答は、「テーマ」「講師」別に以下のとおりであった。

A. テーマ

「人間関係や人との向き合い方」「ヒトとして大切なこと、人生に必要なもの」

「就職や生き方」「これからの生き方」「現代社会において必要な生き方、持つべき考え方」

「ビジネス関係」「グローバル」「異文化」「政治と文化」「文化と発展」「女子 issue」

「子供のための教育」「数学や哲学」「生物系」

- 大学生のお客さんがメインだと思うので、大学生に身近なテーマがいいと思います。それこそ大人の方が「もし今大学生だったらこんな事知っておきたかったな」ということを、こちらが教えていただきたいです。
- 国際交流、グローバルなことに興味があるので、また卒業するまでにこのようなセミナーに参加させて頂けたら嬉しいです。
- セントレアや航空会社が今後海外へ事業を広げるうえで、課題になることなど。

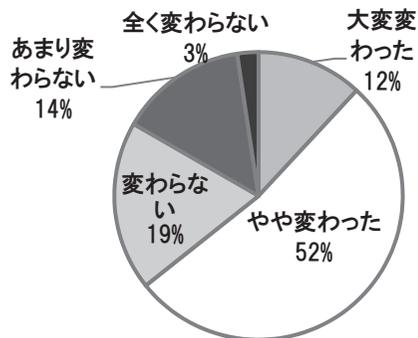
B. 講師

「発展途上国支援に関わる人」「海外にたくさん行っていて、いろんな国の話をしてくれる講師」「三重県出身の方」「今をときめく、GAFAの日本法人とか？」

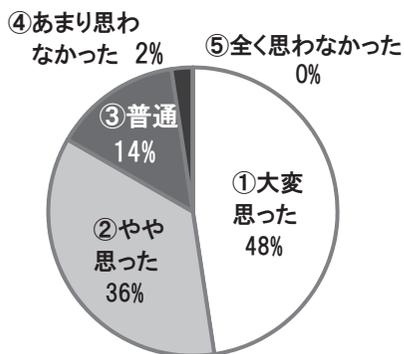
（留学生からと思われる回答）

- 人文学部の山田雄司先生と吉丸雄哉先生です。忍者について受講したいと思います。
- 日本でのインターシップ。
- 日本文化や日本地理など日本に関係があるテーマに興味があります。
- Seminar about popular books (International & Japanese books)

グラフ 10. Q3.「今回のセミナーを受講して、LCC のイメージは変わりましたか？(利用しなくなりましたか?)」



グラフ 11. Q4.「今回のセミナーを受講して、海外旅行や留学をしたくなりましたか?」



9. 考察

本稿では、10月に三重大学国際交流センターが産学官連携のもと実施した「グローバル人材セミナー」の経緯と内容、実施結果について報告した。このイベントは、中部国際空港が愛知県を中心に繰り広げている若年層渡航促進事業の一環であり、その事業に携わる三重県庁交通政策課との初のタイアップにより実現されたことにもなる。大学だけでは内容や予算面で実現が難しいイベントや授業も、今回のような産学官連携事業により実現可能な場合があり、それを享受する学生が受ける恩恵は測り知れない。その結論に至ったのは、今回のセミナーに招聘した出口治明学長の卓越した教養と言葉のパワー、「一期一会」を大事にされる人柄の魅力、そして熱心に耳をかたむけ、積極的に質問する学生の姿であった。

今回のイベントの充実した雰囲気は、留学生との交流を促したアイス・ブレイクも含め、留学生以外の日本人学生は「参加希望者」に限定したことにもよるとも考えられる。出口学長(2017)によると、「人材は育てる」というよりも「見つけ出すもの」であるらしい。人には様々な個性や資質があるのだから、「育てる」という考え自体が傲慢であると感じるとのこと。教育機関はすべての学生に向けて平等に教育を施す義務があるが、学生には個性が異なる興味がある。イベントを差別化することは、学生の「二極化」という課題に対応するための一つの方策であるかもしれない。

セミナー内容で特に印象に残ったのは、出口学長がかねてから発言されているリベラルアーツや人文分野の重要性である。質疑応答の時間、「人文系不要論、理科系偏重」について意見を求めた男子学生に対し、出口学長は、「文理両方の頭脳が必要」という答を、ファクトとロジックの思索から明確に説明された。それは、世界を牽引する企業の創業者

「グローバル人材育成」における産学官連携の可能性～出口治明氏（立命館アジア太平洋大学学長）を迎えて～

や政治家の多くが文理両方で博士号を持つというファクト、自動運転を実現する社会には、法律や哲学的な思考が必要であるというロジックからとも言える。それは、文系やリベラルアーツを軽視しがちな日本に対する警告であるだけでなく、学生の表情をパッと明るくさせるだけの力があるエールでもあった。人文軽視の風潮が、大学運営だけでなく、学生の心にまで大きく作用している（不安にさせている）事実が見えた瞬間でもあった。

セミナーに対する参加者の満足度は大変高く、程度の差はあれ、結果的に全員が「満足」した結果となった。最も多くの学生が理由としてあげたのは「新しい知見や価値観、視点」を得たことである。「濃度が高い、普段と違う価値観」や「知見を広げることができた」ことで、「自分の世界が広がった」り、「広い視点から日本をとらえたことがなかった」学生の就職活動を支援することに繋がったことがわかった。もともと向上心の高い学生が多く参加している中で、彼らに「衝撃を受けた」と感じさせる出口学長の視点や教養は、普段の講義や教科書からは得られない異質で特別のものであったことがわかる。

次に多かった理由は、「社会に出る不安を解消（軽減）」と「出口学長の教養や魅力」によるものであった。就職活動や社会に出ることへの不安は、言うなれば「今」という時をどのように過ごすべきかわからない、という心の表れとも無関係ではないだろう。本イベントのタイトルが、その種の不安感を持つ学生らを惹きつけたとも考えられる。だとすれば、彼らの不安を解消（軽減）できた本セミナーの意義は極めて高い。不安が解消された以上に、すぐに学んだことを行動へ移したいという衝動を感じた学生もいた。実際、セミナーの終了後に、「すごく感動した！ありがとう！」「めっちゃ得した、出口先生、すご～い！」と高揚した顔で会場から去る学生が何人もいた。出口学長のメッセージは、多くの学生を不安感から救い、行動させる原動力に作用したようである。

その一方で、参加してくれた留学生の中には、「日本語や内容が難しかった」とアンケート等で感想を述べた学生が数人いた。彼らの日本語レベルは上級なのであるが、世界の経済や日本企業がかかえる問題等の話題を理解できるほどのレベルに達していなかったようである。その点は残念であるが、アイス・ブレイクの時間では日本人学生と共に交流を楽しむ姿がうかがえた。事前アンケートで収集した「三重大学への要望」に対する答では、「留学や研修に対する奨学金やサポート」と共に、「留学生との交流」を求めるものが多かった。今後は、留学生と日本人学生が交流できる場を充実させ、双方とも「大変満足」と感じられるようなイベントの企画が必要であると感じている。

「今回のセミナーを受講して、海外旅行や留学をしたいと思いませんか？」という問に対しては、80%以上の参加者が海外渡航に対して興味を持ったことがわかった。しかしながら、もともとテーマや海外留学に興味を持っていた学生が大半であったことから、効果

を測ることは難しい。その一方で、「LCC のイメージは変わりましたか (利用したくなりましたか) ?」という問に対して、LCC を利用しての海外渡航に興味を持った学生が 64 %もいた。「もっと世界のいろいろなところに飛び出して行きたくなりました」と答えた学生や、「セントレアや航空会社の事業展開や課題」について学びたい、と希望する学生もおり、海外渡航促進事業の意味でも一定の効果が得られたと考えられる。

事前アンケートにも含まれていた「三重大学への要望」から、海外留学の奨学金やサポートの他に、今回のようなセミナーや講演会の実施を希望する学生が多いことも判明した。各部署が講演会を含めて様々なイベントを企画・実施してはいるが、「グローバル人材育成」に関連するイベントの数は年間を通じて決して多いとは言えない。主な理由として、国立大学の法人化以後、削減され続けている国立大学予算の影響があげられる。削減された予算により、大学運営は厳しい局面を迎えており、そのあおりを学生が受けている。本セミナーに支出された予算は膨大なものではなかったが、産学官連携による予算がなければ実現することはできなかった。予算面の理由だけでなく、今回のような産学官連携による「グローバル人材教育」は実践的授業や留学生と日本人学生が交流する機会を大学に与えることもできる。今後も、本学を含めた三重県下の高等学校、高等教育機関において、若年層の海外渡航促進事業を中心とした「グローバル人材教育」が様々なかたちで継続されていくことを期待している。

10. おわりに (謝辞)

今回、本学は県庁と中部国際空港利用促進協議会との連携により、立命館アジア太平洋大学の出口学長をお招きする幸運に恵まれた。その実現のために企画から実施、アンケート収集まで尽力いただいた県庁職員 (牧田拓巳氏) は本学人文学部の卒業生である。イギリス留学も経験している彼からは、三重県下における若年層の渡航促進とともに「グローバル人材教育」に対する熱意も感じられた。今回、多くの学生は出口学長から、将来につながる「今」を懸命に生きることの大切さ、自分自身の価値観を築き上げるヒントと力 (パワー) を受け取ることができたのであるが、この恩恵は「地域貢献」や「ローカルな視点」を併せ持つ牧田氏をはじめとした方々の存在なしには得られなかっただろう。こう考えた場合、ある意味、この事業は、本学が「ローカルな視点を持ったグローバル人材」をすでに輩出できていることを確認する場でもあったのかもしれない。

中部国際空港利用促進協議会と三重県庁地域連携部交通政策課の関係者の皆様、そして協力してくれた学生と事務スタッフの皆様に、厚く御礼を申し上げます。

「グローバル人材育成」における産学官連携の可能性～出口治明氏（立命館アジア太平洋大学学長）を迎えて～

<参考文献>

グローバル人材育成推進会議（2012）『グローバル人材育成戦略（グローバル人材育成推進会議 審議まとめ）』, <<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/global/1206011matome.pdf>>

（2018年12月23日アクセス）

セントレア「セントレアの産学連携」<<https://www.centrair.jp/corporate/torikumi/industry-collab/>>

（2019年1月7日アクセス）

中部経済連合会「中部国際空港利用促進協議会」<<http://www.chukeiren.or.jp/outline/organization/2013/09/post-9.html>>（2018年12月21日アクセス）

出口 治明（2017）「本物の思考力」小学館.

三重大学（2017）「トピック」, <<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2019/01/post-1727.html>>

（2019年1月8日アクセス）

立命館アジア太平洋大学「APUについて」, <[http://www.apu.ac.jp/home/about/content 12/](http://www.apu.ac.jp/home/about/content%20/)>

（2018年12月20日アクセス）